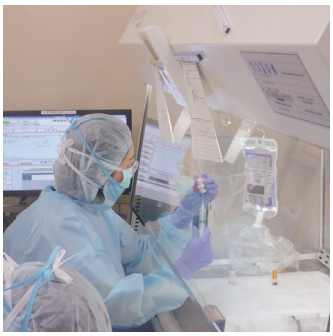
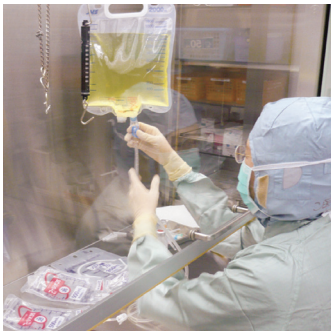
地方独立行政法人

神奈川県立病院機構

薬剤師レジデント制度





当機構では、幅広い知識・技術・コミュニケーション能力を身につけた薬剤師を育成するため、薬剤師レジデント制度を創設し、平成 29 年度から薬剤師レジデント制度を始めています。

レジデントの研修期間は２年間で、この間に県立５病院（足柄上病院、こども医療センター、精神医療センター、がんセンター、循環器呼吸器病センター）全てをまわり、業務を行い、実践的な能力を高めていきます。

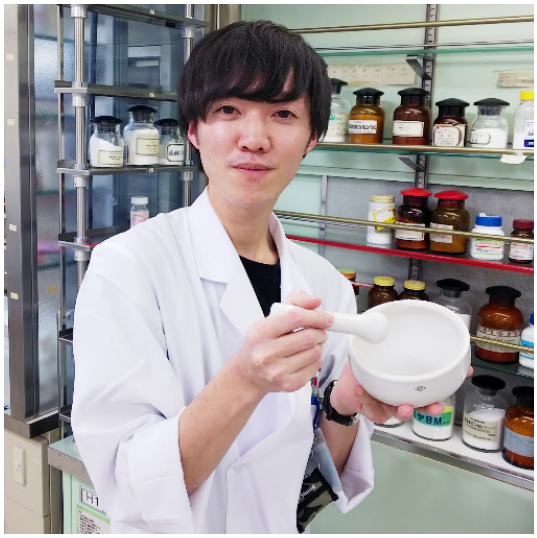
当機構の４つの専門病院及び１つの総合病院で研修を受けることで、自分の将来進みたい方向性を見つけましょう。

研修修了後、当機構の常勤職員を希望する方には、常勤職員への道が拓かれています。

＊研修終了前に再度、採用試験を実施します。

先輩の声

「レジデント研修で感じたこと」（薬剤師レジデント１期生）



学生時代より小児医療に興味がありましたが、成人疾患も含め幅広く薬剤知識を使える薬剤師になりたいと思い、この薬剤師レジデントを志望しました。２年間を通じて５つの専門・総合病院を経験させて頂き、各病院の特徴ある疾患や薬剤の使用方法、病棟業務等様々な角度から学ぶことができました。私個人としては、研修を通じて成人での知識を小児へ、小児での体験を成人へ繋げられるような気付き・学びがあり、今後それらを活かして、より専門性を深めていきたいと感じています。また、入職時には興味を持つことが無かった緩和の分野も研修を通じてやりがいを感じていき、緩和ケアチームで一人前の薬剤師として活躍することを目標に日々勉強しています。

「レジデント期間を通して」（薬剤師レジデント１期生）

二年間で様々な特色のある病院を経験することで、患者背景や扱う医薬品の違いだけでなく、各病院の雰囲気の違いにも臨機応変に対応しなければならず、特徴を掴んで仕事をすることの難しさを感じました。しかし、各病院で比較することで、その特徴をより濃く汲み取ることが出来たと思います。知識面での手厚いサポートだけでなく、各病院の現場で活躍できる薬剤師として育てて頂けるため、仕事と勉強の両立は大変ですがとてもやりがいがあります。各病院の薬剤師と接することで、自分のやりたいこと、理想の薬剤師像を見つけられるため、様々な視点から薬剤師としてのキャリアを考える時間があるのはレジデント制度の魅力だと思います。

研修紹介 ―足柄上病院

研修目的

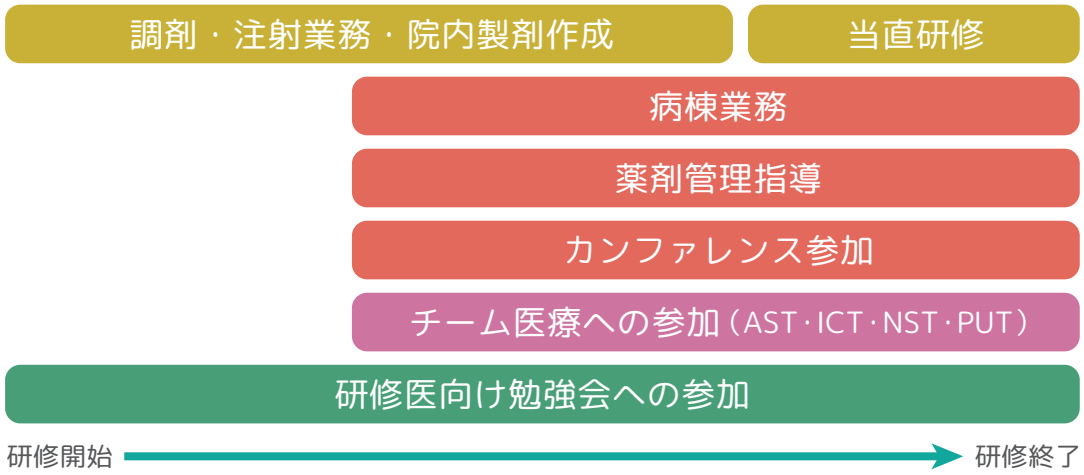
足柄上病院では下記の目標を通して薬剤師としての能力・技能を育成し、薬剤師として必要な態度の修得を目指します。

- 総合病院の薬剤師業務（様々な診療科の調剤、注射、薬剤管理指導など）に必要な知識・技能を身につける。
- 高齢者の薬物療法を理解する。
  ex) 加齢に伴い低下している生理機能を考慮した調剤、多剤併用中の患者に対する副作用モニタリング、視力・聴力・認知機能が低下している高齢患者に対する適切な指導法など。

研修内容

- 研修前半は中央業務（調剤・注射・製剤等）を中心に行い、後半は中央業務に加えてチーム医療（NST,ICT/AST, 褥瘡回診，認知症回診）への参加・担当病棟での病棟業務（薬剤管理指導含む）を行います。
- 夜勤業務の研修を 1 日設けています。

研修スケジュールの概略図



研修修了者の声

機構の病院で唯一の総合病院のため、他の専門病院では関わることのない様々な疾患を幅広く見ることができます。また、病棟常駐をおこなっているため他職種や患者とその家族との距離感も他の病院とは異なっていることが特徴的だと思います。

研修紹介 ―こども医療センター―

研修目的

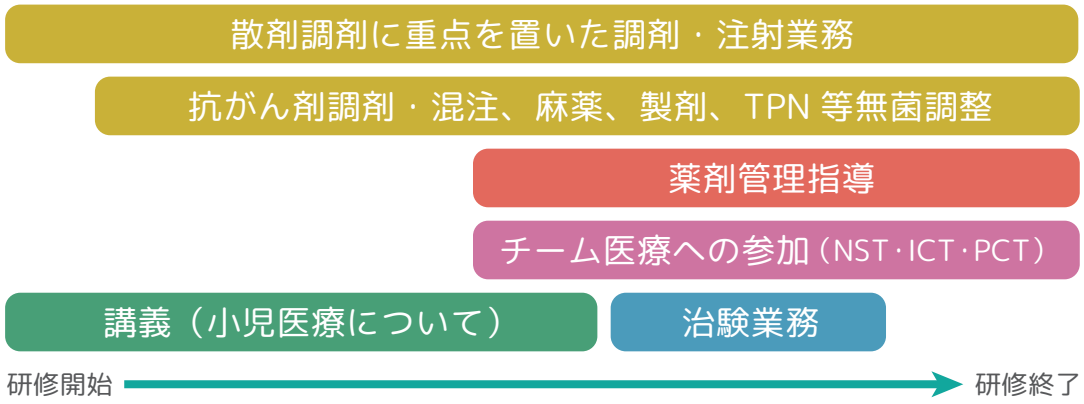
こども医療センターでは下記の目標を通して薬剤師としての能力・技能を育成し、薬剤師として必要な態度の修得を目指します。

- ●代表的な小児の疾患、薬物治療を学び、成人と小児の違いを理解できるようになる。
- ●小児の薬物療法を理解し、病態に配慮した薬用量、剤型、投与経路を提案できる。
- ●小児の発達・成長段階に合わせ、患者、家族等の対象に応じた服薬指導を実践できるようになる。

研修内容

- ●前半は主に調剤、注射、無菌調製等の中央業務の研修を行います。後半は中央業務に加えて、外科系（耳鼻科・皮膚科、心臓血管外科、外科　他）、内科系（血液科、循環器科、児童思春期精神科　他）の薬剤管理指導業務を行います。
- ●治験コーディネーター（CRC）の指導の下、治験管理業務について学びます。
- ●NST、ICT、PCT 等のチーム医療活動に参加します。

研修スケジュールの概略図



研修修了者の声

定期的な進捗確認があり、疑問点を解決しながら研修を行うことができて良かったです。また、小児ならではの服薬指導や薬物治療を学び、実践できたことはとても良い経験となりました。

薬剤管理指導業務では複数の診療科での研修を行い、多くの小児疾患について経験を積むことができました。また、発達段階に合わせて服薬指導を工夫することの必要性を知り、それを実践できたことが良かったと思います。

研修紹介 ―精神医療センター―

研修目的

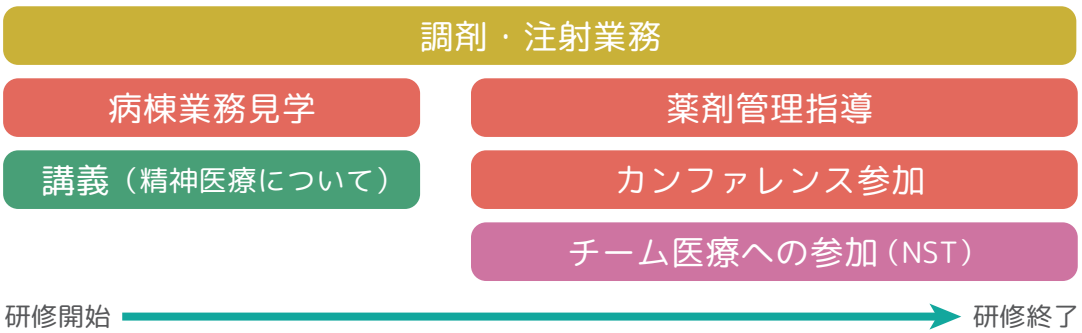
精神医療センターでは下記の目標を通して薬剤師としての能力・技能を育成し、薬剤師として必要な態度の修得を目指します。

- ●精神疾患の病態と患者の特性を理解する。
- ●向精神薬の薬理作用を理解する。
- ●精神疾患の薬物治療および薬物療法以外の治療法を理解する。
- ●精神疾患の薬物療法における服薬指導ができる。

研修内容

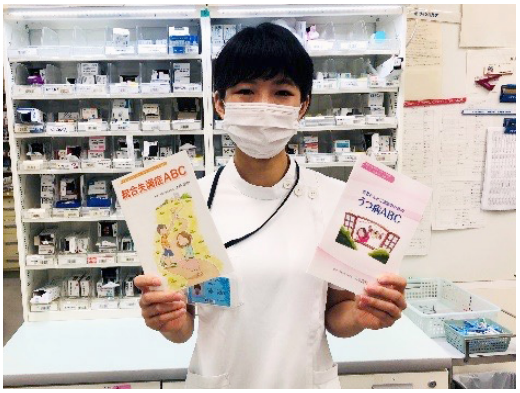
- ●服薬指導に重点を置いた研修を行います。研修初期は精神医療の基礎的な知識を講義により身につけ、指導薬剤師の服薬指導を見学します。その後、様々な精神疾患の患者を担当し、服薬指導を行います。
- ●チーム医療の活動として、ストレスケア病棟の定例カンファレンスや患者家族・支援者とのカンファレンス、NST の活動として行われている嚥下ラウンドに参加します。
- ●医療スタッフによる患者向けの講義を見学します。

研修スケジュールの概略図



研修修了者の声

もともと精神科に興味がありましたが、どのように患者と関わればよいのか不安もありました。研修を通して関わり方を学び、患者個々に応じた服薬指導ができるようになりました。また、身体疾患を合併している患者も少なくないため、他の施設で研修した内容も活かしながら勤務しています。



研修紹介 ―がんセンター―

研修目的

がんセンターでは下記の目標を通して薬剤師としての能力・技能を育成し、薬剤師として必要な態度の修得を目指します。

- 抗がん剤の調剤、注射、混注業務に必要な知識・技能を身につける。
- 抗がん剤投与の中止・減量基準、支持療法（抗がん剤治療による副作用を軽減する目的で行われる予防策や治療）を含め、がん薬物療法の適正性を確認できる。
- 抗がん剤治療に応じた薬学的ケア、副作用のマネジメントができる。

研修内容

- 薬剤業務全般を研修します。研修前半では主に調剤・注射・混注業務を中心に行います。研修後半では中央業務に加えて、担当薬剤師の指導の下、薬剤管理指導業務を行います。
- 担当薬剤師と共に院内の各チーム活動に参加し、チーム医療における薬剤師の役割や他職種の連携について学びます。
- 各診療科担当の薬剤師によるがんや緩和ケアに関する講義を受講します。

研修スケジュールの概略図

研修修了者の声

研修前は「がん」に対して、使用する薬剤や患者さんとの接し方のイメージが出来ず、不安で一杯でした。はじめは目の前のことをこなす日々でしたが、先輩薬剤師からの指導を受け、同僚とも切磋琢磨し、薬剤の調製・投与方法や治療スケジュールを徐々に理解できるようになり、ポイントを押さえて業務を行うことが出来るようになりました。薬剤管理指導を行うようになった際には、現状を受け止め、前向きに頑張っている患者さんがこんなにもたくさんいるのだ、と驚きました。少しでも力になれるよう、患者さんに寄り添った副作用マネジメントや服薬支援を行うことを意識して、治療が円滑に進むことへの喜びを感じながら研修することが出来ました。また、各専門病院の研修を受ける中で、患者層に合わせた接し方を学ぶことが出来、大きな自信になりました。

研修紹介 ―循環器呼吸器病センター―

研修目的

循環器呼吸器病センターでは下記の目標を通して薬剤師としての能力・技能を育成し、薬剤師として必要な態度の修得を目指します。

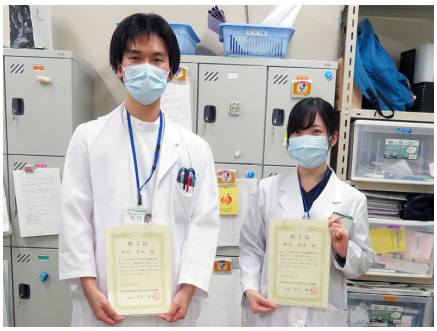
- 調剤、注射、混注業務に必要な知識・技能を身につける。
- ハイリスク薬剤を使用する患者に適切な服薬指導、薬学的ケア、副作用のマネジメントができる。
- 結核の治療法と DOTS（直接服薬確認療法）の重要性を理解し、患者に適切な服薬を支援することができる。
- 治験の意義と関連法規について学び、治験開始から終了までの流れを理解する。

研修内容

- 薬剤業務全般を研修します。研修前半では主に調剤・注射・混注業務を中心に行います。研修後半では中央業務に加えて、病棟担当薬剤師の指導の下、薬剤管理指導業務を行います。
- 担当薬剤師と共に院内の各チーム活動に参加し、チーム医療における薬剤師の役割や他職種の連携について学びます。また、結核患者に向けた勉強会へ参加し、多剤耐性結核や服薬の注意点を学ぶことで患者のアドヒアランス向上のために薬剤師としてできることを考えます。
- 治験管理室での研修を通し、治験コーディネーター (CRC) の業務や治験倫理委員会 (IRB) の役割について学びます。

研修スケジュールの概略図

研修修了者の声



循環器呼吸器病センターでは、疾患の特徴故にハイリスク薬を使用している患者も多く、安全な薬物治療を行うために必要な薬学的管理や服薬指導について学ぶことができました。加えて、当院には生活習慣病を基礎疾患とする患者や肺癌、結核患者も受診するため、幅広い疾患の患者に関わることができました。また、病棟担当薬剤師だけではなく、他病棟の先輩薬剤師からも指導していただけたことで、自分だけで解決することが難しい問題にも積極的に取り組んでいくことができたのが印象的です。治験管理室での研修では CRC の業務に同行することで医療における治験の位置づけや薬剤部・他部署との連携が重要である事を実感しました。レジデントの頃に得た経験は日々向上心を持って業務に取り組むための糧となっています。